

平成 22 年 9 月 15 日

上海視察報告

全国紙管工業組合東部地区部会

武川産業株式会社

営業部長 大畠健彦

日程 平成 22 年 9 月 9 日（木）～9 月 12 日（日）

参加者 8 社 11 名

目的 上海維拉紙管有限公司、上海万博（日本産業館、中国館）視察

出発当日も大変天気がよく幸先のよい羽田出発となりました。上海の虹橋空港に無事到着しましたが、上海も好天で青空が迎えてくれました。上海の青空は珍しいとのことでした。一向全員が感じています、上海の交通事情には驚き（閉口）しました。日本の感覚では到底理解できません。お国柄と
いえば簡単ですが聞きしに勝る状態です。我々では運転は困難というよりもしたくない思いです。
そんな中を今回の目的の一つである紙管メーカー視察先の「上海維拉紙管有限公司（SAYNGHAI
WEILA PAPERTUBE CO.LTD.）」に向かいました。当社には前回（昨年）の中国視察の際にも訪れ
ており、一行の中には再訪となった方もいました。但し業績好調の表れなのか前回の場所とは違う所
に移転し工場も大きくなったとのこと。現地では陳武副総経理と楊進工場長の出迎えを受け会社
説明や工場案内をしていただきました。

当社は今回の上海万博の日本産業館の室内デザインの目玉である壁面に使用されている紙管を供給
したメーカーです。

工場には、やはり人が多いと感じました。全体で 150 人位だそうです。暑い工場内での作業を一生
懸命行っておりました。

一番の驚きは乾燥方法でした。肉薄管には先端に 2 つ穴を開け、ここに針金フックを付け乾燥室に下
げて下から乾燥する方法でした。

品質的には??の感じをうけ日本では果たしてどうだろうという物でした。設備面においても近代的
なマシンは見かけませんでした。また安全管理の面からも日本との格差を大きく感じました。それで
も売上は伸びており今期は 7 億超の見込みのようです。



二日目は上海万博視察。

万博会場への入場もセキュリティが厳しく会場に入場するまでかなりの時間を要しました。初めに日本産業館へ行きました。ここは視察計画が出た当初より今回の大きな目的でありました。当部会の日本化工機材様が関わったもので壁面や天井に紙管を使用した内装で興味深いものでした。内容にはビジュアル的に凝ったもので日本の紹介がなされていました。またここへの入場も同社のご尽力でVIP待遇により待たずに入場できました。暑い中とても助かりました。

午後からは中国館へ参りました。ここは流石に自国のパビリオンで多くの入場待ちの人達で混雑しておりました。集合から入場できるまで2時間以上も待たされました。その間例の中国人の大きな声での会話はぐったりしているところに更に追い討ちをかけられたみたいでした。あのバイタリティは何処から来るんでしょうか。中国館の内容は大きなスクリーンに昔の街の様子が動画で表現されていました。また中国の国宝も展示されておりましたが、警備も万全で見るには動く歩道に乗って見るだけで1，2分だけでした。



三日目は各自自由行動の予定でしたが、7人で蘇州観光へ参りました。

蘇州では世界文化遺産の「拙政園」と中国では有名な古刹である「寒山寺」を訪ねました。

それからシルクの刺繍工場を見学しましたが、細かい根気の要る作業でしたがすばらしい作品を見ることができました。高価なものは2年もかけて製作するようで何百万をする物もありました。



暑い中での3泊4日旅程でしたが中身の濃い？視察でした。同行された組合員との交流も更に深められ益々部会も活気高まる思いがしました。